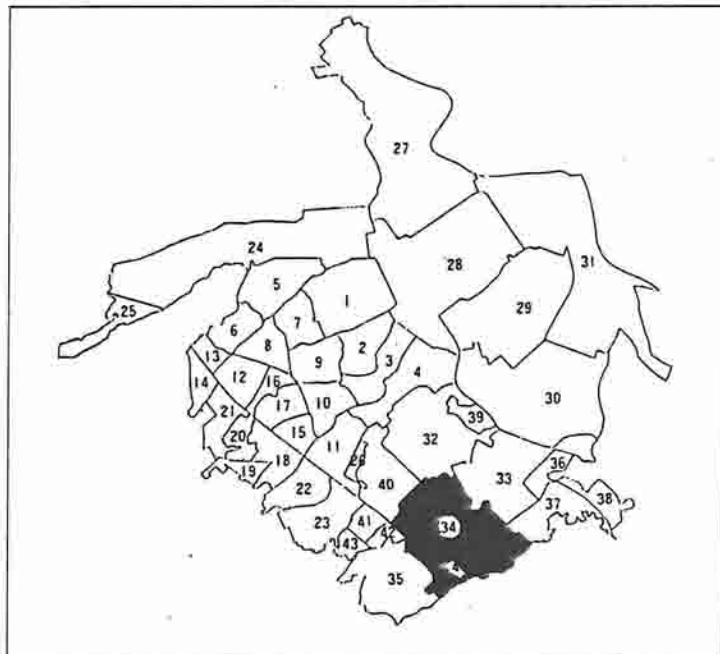


・概況

水谷第3町会は、富士見市の南部に位置し、南東側は急斜面〔段丘崖(急)〕、緩い斜面〔段丘崖(緩)〕、浸食斜面(低位段丘)から低地を経て主要地方道浦和・所沢線(国道254号線)に面し、さらに水田(谷底平野、氾濫平野)をはさんで柳瀬川に接し、他の地域は台地(台地段丘)で形成されている。

台地の北側には、水谷小学校、水谷公民館、水谷出張所、水谷派出所等の公共施設が、南東側には性蓮寺、八幡神社、氷川神社が、そして南西側には東武東上線が通り、北西側にみずほ台駅がある。みずほ台駅東口は、商業地域(防火地域)、近隣商業地域に指定され、協和埼玉銀行を含め商業施設、業務施設がある。他の地域は住宅が密集している。環境は、一部、武蔵野の緑が失われているが、武蔵野台地上の住宅地と田園とが調和した良好な地域である。水害は、水害履歴から台風に伴う大雨により県道浦和・所沢線沿いの水路や柳瀬川に面した灌漑用水路からの溢水のため住宅や畑が冠水する内水災害が予想される。地震災害は、南東側の台地端にある急斜面の崖崩れで崖下の住宅が被害を受ける危険性がやや高いと予想される。

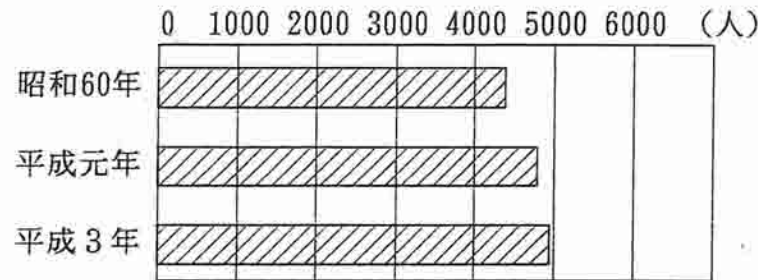
・位置図



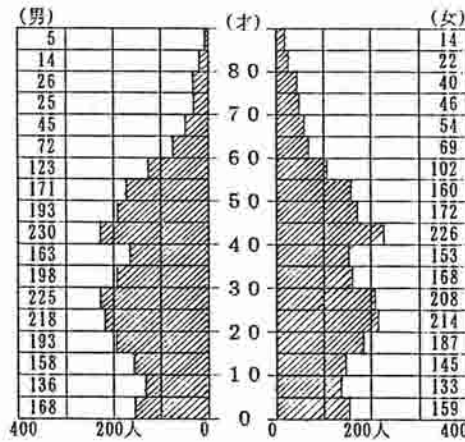
1. 基礎指標

・面積	1,154 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	2,474人
女	2,427人
計	4,901人
・人口密度	4,247.0人/km ²
・寝たきり老人数	4人
・ひとり暮らし老人数	8人
・世帯数	1,764世帯

・人口推移

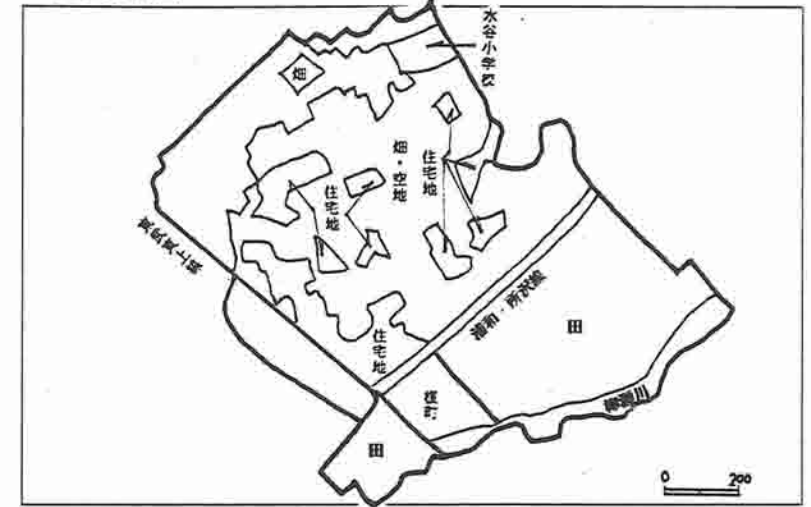


・年令別人口(平成3年)

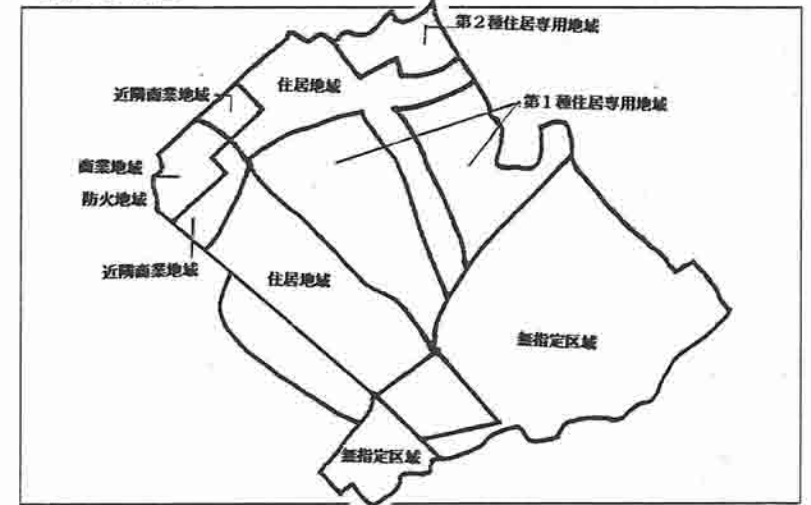


・商住工混在率住居系	92.3%
店舗系	3.4%
工業系	4.3%

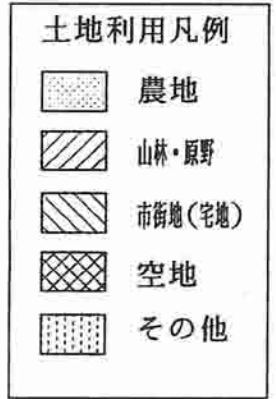
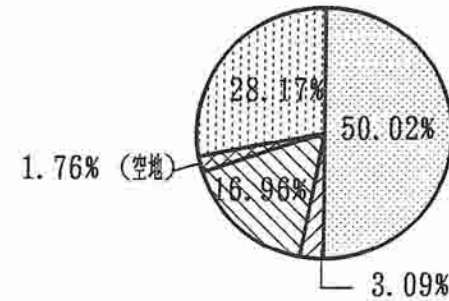
・町会現況図



・用途地域図



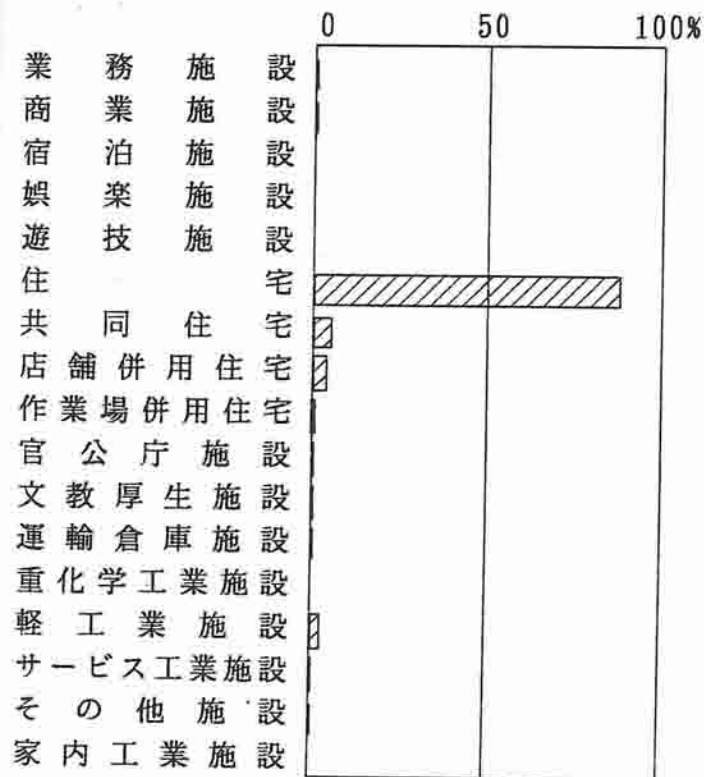
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	1,549棟
木造建物	1,130棟
非木造建物	419棟
・建物面積	92,175.70㎡
木造建物	65,653.00㎡
非木造建物	26,522.70㎡
※建物面積は1階の面積	
・住宅率	87.1%
・木造率	73.0% (1,130棟)
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	106棟
・同上率	9.4%
・建物階層別現況(木造建物)	
1階	411棟 36.4%
2階以上	719棟 63.6%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	87本	75.4本/㎢
・幹線道路率	5本	4.3本/㎢
・公共空地面積	20,283.8㎡	
・公共空地率	1.8%	
・1人あたり公共空地	3.6㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 水谷小学校*	14,297.0㎡	
4. 公園	0㎡	
5. 性蓮寺*	4,656.8㎡	
6. 水谷公民館*	1,330.0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	54本
・1消火栓あたり世帯数	36.6世帯/本
・消防水利貯水施設数	22 (6) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	富士見市消防団第8分団

5. 危険物指標

・給油取扱所	1か所
・一般取扱所	0か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	1か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(氾濫18号)	4棟	0棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害(年 ~ 年)			0件
・火災出火件数(平成 3年 ~ 年)			1件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	3か所	上村内科, おぎそ小児科医院, 巖齒科
休日診療所	0か所	
警察	1か所	東入間警察署 水谷派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

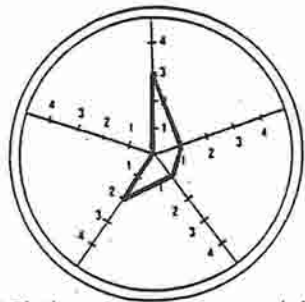
・内水災害危険度	3ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	2ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	1ランク
・木造建物延焼危険度	2ランク

地盤	地盤の地震動危険度	低地 4	1ランク
危険度	液状化危険度	" 2	0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



液状化危険度

木造建物被害危険度

木造建物延焼危険度

木造建物出火危険度

※ 想定震度 台地(+) (強震(強))
 低地(+) (烈震(強))

9. 地盤条件

地盤は、台地で硬く、低地(水田)で軟らかい。台地で震度5(+) (強震の強い方)、低地で震度6(+) (烈震の強い方)の地震が予想される。

10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	低地(水田)の灌漑用水路からの溢水。	1. 水防能力	水防施設は無い。
2. 外水災害	少ない。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	台地は、地盤条件が良いので倒壊の危険性は低い。	3. 消防能力	消火栓、消防水利貯水施設は十分と思われる。台地端付近(大字水子字正綱)や東武東上線沿線の住宅地内の生活道路が狭いため、消防車の消火活動が妨げられる恐れがある。
4. 出火危険	出火の危険性は低いと予想される。	4. 防火能力	みずほ台駅東口付近の商業施設、業務施設は不燃化が促進されている。しかし、木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率は70%以上と見込まれるため、延焼の危険性は低いと予想される。ただし、木造家屋密集地域で火災が発生した場合、延焼の恐れがややあると予想されるので注意を要する。	5. 避難収容力	町会内には、水谷小学校、水谷公民館、性蓮寺が避難所として指定されている。収容力は十分と思われる。
6. その他の災害	性蓮寺手前南東側、別所地区東上線東側(大字水子字正綱、字別所内)で崖崩れの恐れがややあるので注意を要する。		

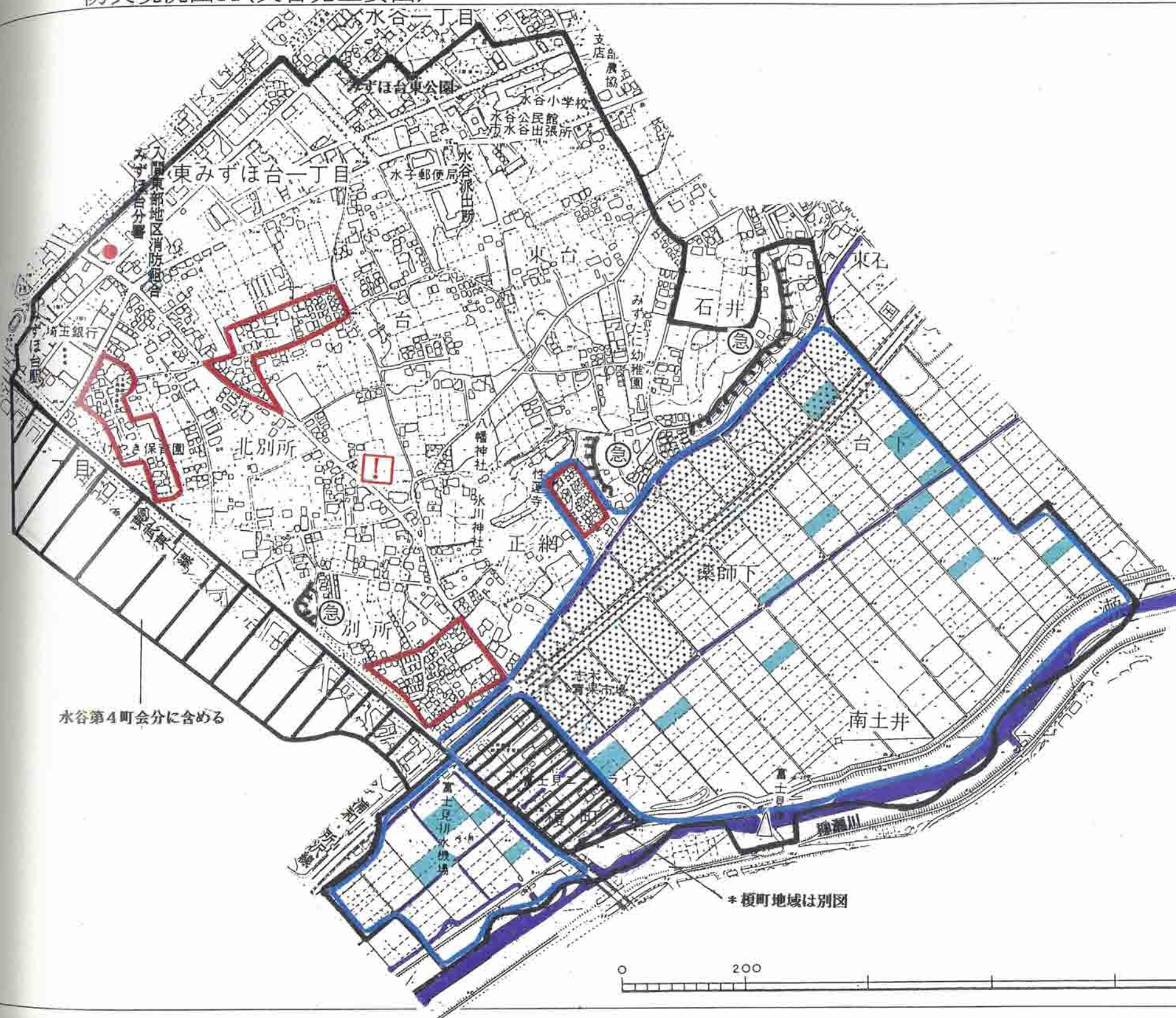
11. 解決の方向性

灌漑用水路からの溢水の要因は、台風に伴う大雨による柳瀬川と新河岸川の水位が高くなり、内水が排除できなくなることに問題がある。したがって、これら河川の治水対策(新河岸川総合治水対策事業(県))を踏まえて、台地の生活道路や幹線道路の側溝から灌漑用水路へ流入する雨水の流出抑制施設などの予防対策を図る事が望ましい。

避難可能な道路として幹線道路を使用する。問題は、幹線道路までの住宅地の生活道路の狭隘化にある。したがって、災害時にブロック塀などが倒壊し、生活道路が避難路として使用できなくなる危険性が予測されるので、ブロック塀などの倒壊防止の対策指導を行い、生活道路狭隘化の予防を図ることが望ましい。

急傾斜地における崖崩れ対策と同時に周辺住民への周知が必要である。

防災現況図A(災害発生要因)

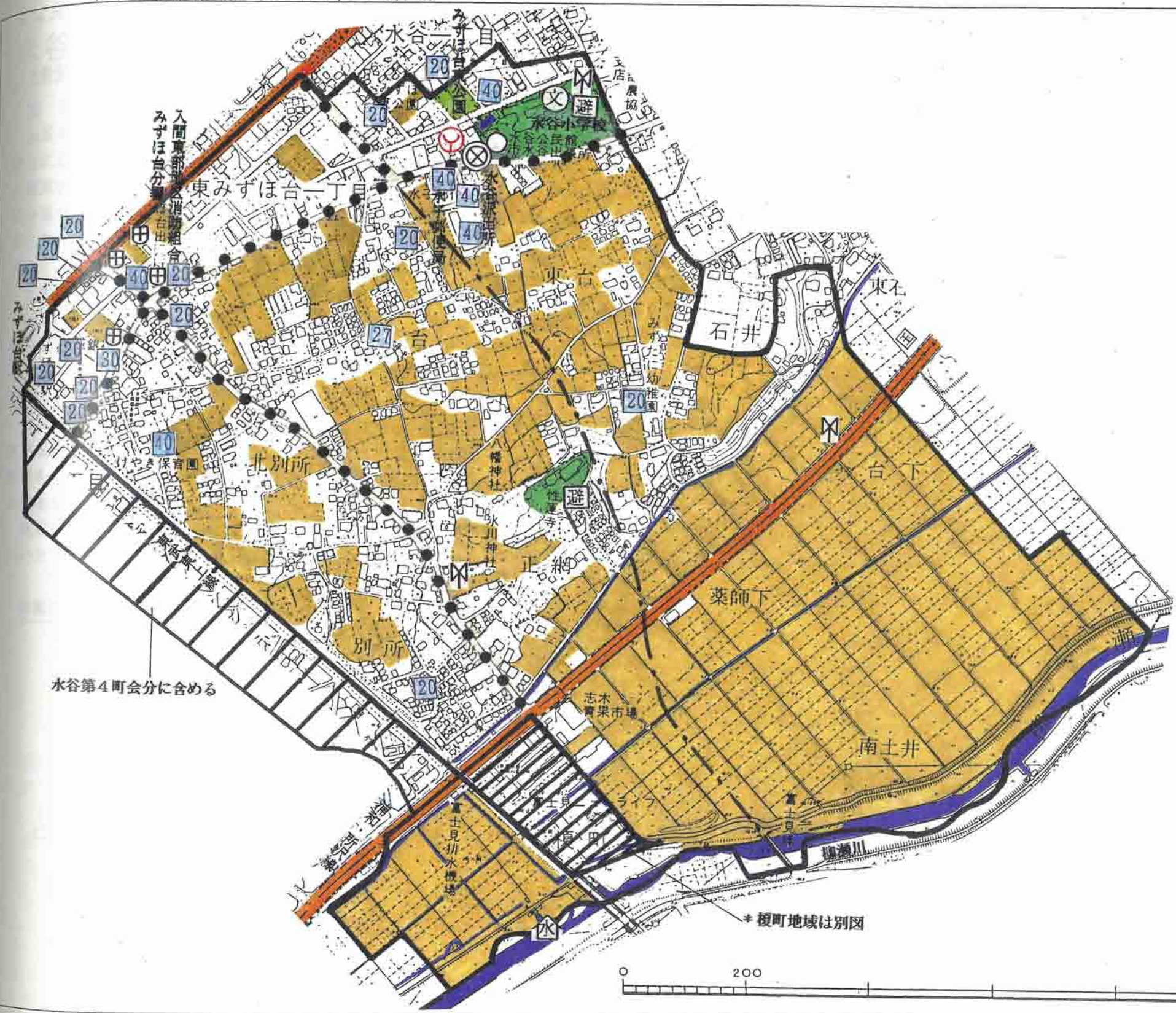


凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立体交差
□	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
●	盛 土
□	浅い谷・低地(谷底平野)
既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域

水谷第4町会分に含める

* 複町地域は別図

防災現況図B (災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病院
	医院
	休日診療所
	指定避難所
	公園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路(計画中)
	学校(小・中・高)
	空地・水田・畑

水谷第4町会分に含める

* 榎町地域は別図

